西岡 清（にしおか きよし）先生

大阪警察病院 皮膚科

今回の「ドクターインタビュー」は、大阪警察病院皮膚科の西岡 清先生をお訪ねしました。警官と名の付いているものの治療を受け、医師の書類を読むこともございますが、古代の医師が何を治療したか、その治療法はどのようなものであったのか、その背景を追究してみることにしました。

先生は皮膚科領域で、永年にわたり患者さんが診てこられました。患者さんの変化をみながら、考え方の変化を深く学びました。特に、皮膚科医としての役割は、患者さんの健康を守ることであり、それが求められているのか、どういった患者さんが皮膚科を求めるのか、患者さんが何を求めるのか、そのような観点から、患者さんがどう考えているのか、どのように医師としての役割を果たすのか、それを追求しています。

私が東京医科大学に勤務していたとき、プロテオグリカンの研究に取り組み、その研究は、皮膚科領域での基礎的な研究として、その後の治療法の開発に深く関与しました。現在でも、皮膚科領域での研究は、また新たな発見を求めております。

ドクターインタビューでは、患者さんの声を大切にし、医師の役割を超えるものとして、多くの方々が、医師としての役割を果たすための努力を続けています。